

## 私のふくい探訪

福井から  
日本海の  
未来へ

2006年、経済産業事務次官に就任したとき「在任中に必ず福井県を訪問すること」という異例の項目が引継事項にあって驚いた。前任者が近畿経済産業局長のときからの福井ファンだったこともあるが、エネルギー供給で大変なお世話になっていること、ものづくりでキラリと光る企業が多いからというのが理由だった。

夏の経済セミナーで講演し、県庁や商工会議所を表敬訪問した。また、福井県がAPE

Cエネルギー大臣会合の開催地となったとき、その推進協議会の顧問を引き受けた。何度も訪問しているうちに、すっかり福井ファンになってしまった。食文化、住生活、教育水準、地域社会の連帯の高さは、GDPだけが豊かさの尺度ではないこと、県民所得の金額が地域の幸福度を表すものではないことを示している。

東日本大震災と未曾有の津波被害は、太平洋側に過度に依存する経済、産業、国民生活の脆弱性を実感させた。これからの国土強靱化の大きな柱として、日本海側にもう一本の国土軸を作るべきである。確かに環太平洋地域のこれからの発展は間違いない。さまざまな難問を抱えながらもTPPの妥結を政府が急ぐのは理由がある。しかし、それは太平洋の彼方の国々に貿易と資源、エネルギーをこれまでに以上に大きく依存することにつながる。中南米諸国はあまりにも遠い。



元経済産業事務次官

きたばた たかお

## 北畑 隆生

東京大学卒業後、経済産業省入省。2006～2008年まで経済産業事務次官。

2010年日本APECエネルギー大臣会合福井開催推進協議会 特別顧問。現在は、(株)神戸製鋼所社外取締役、学校法人三田学園理事長、他。

目を日本海側に転じると、近くに環日本海経済圏がある。政治外交的に課題を抱える国が多いものの、貿易拡大や資源、エネルギー供給で大きな発展性を秘めている。何よりも距離が近い。日本の将来発展の正面を環太平洋地域だけに依存することは、経済外交の弱味となりかねない。日本海側にもう一つの正面を設定して強かな経済外交の梃子とすべきである。福井県が提唱される第二国土構想の意義をもっと高く評価し、具体的な取組み、特に今年3月に開業した北陸新幹線の金沢から福井・敦賀まで、そして完成を急ぐべきであると思う。

なお、冒頭の引継事項は、今も歴代の次官に継承されているようである。

## エネルギーとこと

エネルギーコストの増大は産業の空洞化と地域の疲弊を招き、国民・県民にとって雇用の喪失など大きな打撃となります。しっかりと方向付けされた責任ある原子力・エネルギー政策の実現が不可欠です。

福井県経済団体連合会 会長 川田 建男

福井県環境・エネルギー懇話会

〒918-8004 福井市西木田 2-8-1  
福井商工会議所ビル 6F

▶バックナンバーはコチラから

福井県環境・エネルギー懇話会 検索

次回掲載は

平田 竹男氏 5月20日(水)掲載予定

※掲載日は前後する場合がございます。  
ご了承ください。